

つみきのくらし

日々の暮らしの中で、こども園つみきとして大切にしたいことや、こどもの素敵な姿をお伝えしていきます。

井鳥 佳織



おにいさんたち、なにしてるのかな？

ぼくも
みてみ
よう

南園庭の隅で、頭を突き合わせて何かに夢中なお兄さんたち。その様子が気になっていた小さいお友だちは、自然とその輪に仲間入りしました。

「先生すごい事わかった！」と声をかけられて近づくと、「あのね！これを入って、太陽の光が当たると固まるんだよ！すごいんだよ！」と世紀の大発見と言わんばかりの表情で教えてくれました。

見せてくれたのは、バケツに園庭内で見つけた自然物を敷いて、上から水と土を混ぜた（絶妙な配合）トロトロの土をかけるとチョコレートのように固まりました。

「おお！大発見だね！」と答えると満足そうに、何度も試していました。与えられたものではなく、自分たちの遊びの中に偶然見つけた発見→誰かに伝えたい→受け入れられる→肯定感→何度も試す→また新しい発見……この素敵なかみの学びループを、いつでもいろいろな子たちが体験してほしいと思います。



わかりずらいですが、茶色い塊が、大発見の塊。
チョコボール風。



先日のワークショップのために土を搬入しました。その土の中に、ソフトボール大の土の塊がゴロゴロと混入していたのを、子ども達はすかさず発見！一輪車や手でせつせつと集め始め1つの山が作られていきました。

1番始めに集める作業をしていた子がいつの間にか指揮官となり、その遊びに興味を持った収集部隊が集めてくるというかたち。その中で指揮官は、土の塊の大きさや積み上げていく最適な場所を仲間に伝え、そして、出来上がってしていく山を運んできた子たちと満足げに眺め、また作業が続く。

自然と役割が生まれ、それぞれが自分のポジションを納得して楽しんでいる光景に、感動を抱きながら見入っていました。

そして次の日、前日の作業に満足した本人たちは違う遊びを楽しんでいました。しかし、その山に魅力を感じた子がその山を崩すという遊びを楽しんでいました。子どもが変わっても山遊びの楽しいが繋がっています。



土の塊の山の始まり



崩すという遊びが楽しいお年頃

